

第108回 卒業式を挙



東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行兼 中原 泉
編集人 中野 浩一
発行日 偶数月末日
定価 1部10円
編集室 (〒951-8580)
新潟市中央区浜浦町1-8
☎ 025 (267) 1500



大学のシンボルマーク

両学部169名が巣立つ 卒業証書番号No.21339号に

日本歯科大学第108回卒業式(学位記授与式)は、3月初旬両学部において挙行し、169名の学士(歯学)を送り出した。あわせて日本歯科大学大学院第56回修了式が催され、25名に博士(歯学)の学位記が授与された。また、東京短期大学と新潟短期大学の卒業式も挙行された。

第56回大学院修了式を併催

生命歯学部は3月6日(水)に生命歯学部富士見ホールにおいて大学院第56回修了式を併催して挙行された。定刻午前10時、司会の高橋孝幸事務部長が開式を宣した。まずクラス主任の添野雄一教授より2018年度(平成30)卒業生103名の氏名が呼びあげられ、別府大嘉繁君が代表して中原泉学長より、栄えある卒業の証として学士(歯学)の学位記を授与された。つづいて学術優秀賞26名、6力年皆勤賞12名、精勤賞8名、5力年精勤賞1名、学術奨励賞10名、臨床実習優秀賞2名の受賞者に対して賞状等が授与された。ついで大学院生命歯学研究科委員の里見貴史教授より、大学院生命歯学研究科博士課程修了生16名の氏名が呼びあげられ、修了生一人ひとりに、研究の成果を証する博士(歯学)の学位記が授与された。つぎに中原学長と、沼



卒業式で告辞を述べる中原泉学長 (上・3月6日/東京、下・3月8日/新潟)



卒業式で告辞を述べる中原泉学長 (上・3月6日/東京、下・3月8日/新潟)

計報

前校友会会長
光安一夫先生逝去

日本歯科大学校友会の前会長で、同会名誉会員・相談役の光安一夫先生は、3月25日に逝去された。享年86。子息は附属病院総合診療科の光安廣記助教。

つづいて在学学生を代表して、第5学年の榎本仁君が先輩を送る送辞を、卒業生を代表して別府大嘉繁君が答辞を述べ、大学院修了生を代表してHiromi Yagi Mendonzaさんが英語で答辞を述べた。終わりに祝電が披露され、全員で校歌を斉唱して、午前11時30分に閉式した。

東京短期大学の卒業式は、短大事務室の今井久枝事務長の司会で、3月5日午前10時より、生命歯学部富士見ホールにおいて挙行された。まず、第50回歯科理工学科卒業生23名と第46回歯科衛生学卒業生72名の氏名が呼びあげられ、奈良陽一郎学長から栄えある卒業の証として、各学科の代表に短期大学士(歯科衛生学)と短期大学士(歯科理工学)の学位記が授与された。ついで第48回専攻科歯科技工学専攻4名、第6回専攻科総合歯科技工学専攻6名と、第10回専攻科歯科衛生学専攻10名、第6回専攻科口腔リハビリテーション学専攻2名に修了証が、また各賞の受賞者に表彰状が授与された。

新潟短期大学の卒業式は、短大事務室の須貝将紀事務部長の司会で、3月7日午前11時より、新



学位記を授与される卒業生代表(東京)



卒業生代表から答辞が述べられた(新潟)

辞令

教授 五十嵐文雄
医学博士 富田 涼一
新潟短期大学学長に任命する
新潟生命歯学部耳鼻咽喉科学教授併任を命ずる
医学博士 富田 涼一
名誉教授の称号を授与する
平成31年3月1日 本学

中原泉学長卒業告辞

ある疑問

私は卒業したての頃、ある先輩から「ヒゲを生やしている人はムシ歯になりやすいんだよ」と教えられた。半信半疑ながら、アゴひげ、口ひげ、頬ひげのどれが、どのよう歯に影響するのかわからず興味を惹かれた。顔半分は熊のようにひげを生やした校友に尋ねると、言下に「歯は丈夫だよ」と大笑いされ、私は先輩にからかわれたのだと口惜しがった。

次に、墜落した小型飛行機に乗っていたモンゴル人の家族6人を検屍したところ、全員に第四大臼歯が生えていたと耳にした。そこで、姉妹校提携でウランバートルを訪れた時、モンゴル国立大学の人類学講座、モンゴル医科大学歯学部、市内の大きな病院をまわったが、異口同音に第四大臼歯は見たことがないと否定された。やはりガセネタだったか、とガツクリきた思い出がある。

私の研究テーマの一つは、第三大臼歯の退化であった。人類学上、約3万年前の新人の時代から第三大臼歯の欠如が始まり、1万年前から32本から28本にむけて未曾有の勢いで加速した。そうなる物好きなきは、人類の歯が28本になるのはいつ頃かを知りたくなっ



中原泉学長：好奇心・実行力には、臨床探求心から日常探求心への変遷が伴った。

た。新人の3万年前を起点として、第三大臼歯の萌出率を推計した。記録データから、縄文時代は80%が萌出し、古墳時代になると63%、鎌倉時代43%、現代は30%と、減少の一途を辿ってきた。つまり、70%を欠如するのに3万年を要したことになる。将来推計では、萌出率が5%になるのは6千年後、口腔内から第三大臼歯が0%になるのは、5万6千都市のうち、最も第三大臼歯の萌出率が低かったの

なるのは1万年後になる。われわれ歯科医師はこれから1万年も、この厄介な第三大臼歯と付き合うことになる。ところがタイ人では、第三大臼歯が消失するのは、27万年前の途方もない先だといふ。つまり日本人の退化は、タイ人の7倍の速さで進行しているのだ。

私は、外国人の第三大臼歯の退化はどうなっているのか、を知りたいという欲求にかられた。い

の役にも立たないと内心思った人がいるだろう。けれども、これは役に立つ、立たないではなく、そこにオリジナリティー・獨創性があるか否かという問題なのだ。今まで知り得なかった新しい知見があれば、私はピンゴと小躍りする。これまで誰も実証したことのないことを、自分が初めて明らかにした。それは、どんな知見であつても、私たちの専門とする学問の空白だった部分を埋めることになる。

私の興味は、ここにどまらぬ。諸君も、両極にある日本人とタイ人の退化に、なぜそんな大きな差があるのか、その原因は何なのか、それを知りたいと思つた人もいるだろう。当然、両者の顕著な差は、両者の第三大臼歯の構造や組成の違いがあるのではないかと考える。だから、両者のエナメル質を比較してみれば、その原因が分かるのではないか。エナメル質の組織構造の種類の比較をした研究は見られない。

そこで、私と共同研究者は、日本人とタイ人の成人男子の埋伏または半埋伏の下顎第三大臼歯各10例を測定した。まずエナメル質の硬度を、ピッカース硬度で5点の個所を測定した。いずれも、硬度はタイ人が日本人より有意に高かった。

ついで、組織構造について、走査型電子顕微鏡により観察した。エナメル質中層のシユレーゲルの条紋の縦断体と横断体は、タイ人のほうが明瞭であり、エナメル小柱のアパタイト結晶の輪郭は、タイ人のほうが走向が整然と配列して明瞭であり、エナメル小柱の断面形態も明瞭であった。組織構造の錯乱度は、タイ人で少なく日本人で多く、石灰化度はタイ人で高く、日本人で低かった。

ここで、先ほどの第三大臼歯が消えさる日の1万年後と27万年後の違いの理由が判明した。研究の醍醐味は、謎解きの面白さにある。

それでは、乳歯ではどうなのか？と追求はやまな

ない。両国人の自然脱落した乳歯各20本を調べた。いずれも、永久歯と同じ傾向であり、すでに乳歯の段階から、エナメル質の構造に差異があることが分かった。

そうすると、エナメル質の元素にはどんな違いがあるのか？と、次の疑問が生じる。研究は元素分析にすすみ、カルシウム、リン、酵素、炭素、ナトリウム、マグネシウム、フッ素の七つの含有率、重量比率をEDPMAを用いて定量分析した。

その結果、組織構造の錯乱度が少ないエナメル質では、カルシウム、リン、ナトリウム、マグネシウム、フッ素の七つの含有率、重量比率をEDPMAを用いて定量分析した。

ここまですると、エナメル質の組織構造と元素組成の差異は、遺伝的なものなのか、環境的なものなのかを知りたい、と胸がさわぐ。研究はアイデアと実行である。

私たちは、エナメル質形成遺伝子であるアメリジン、ナトリウム、マグネシウム、フッ素、炭素、ナトリウム、マグネシウム、フッ素の七つの含有率、重量比率をEDPMAを用いて定量分析した。

25年も前の研究の長話をしたのは、そぐわなかったかもしれない。これは諸君の日常の臨床においても同じであると言いたかったのだ。すなわち、常に知的好奇心をもて。その好奇心を思い付きに終わらせずに、探求心をもって。探求心には、実行が伴わなければならない。探求を始めた途、途中で止めないことである。このことをどこか頭の隅においていただければ幸いである。

終わりに、日本歯科大学第108回卒業という永久番号をつけて、世の荒波に乗り出していく卒業生諸君の健闘を祈る。

(3月6日・8日)

歯学部部長 告辞

生命歯学部部長

沼部 幸博



みなさんは、歯科医師となるべく一生懸命勉学に励むとともに、学生生活を満喫したことと思ふ。そして多くのことを学んできた。それらを全力でサポートし、本学を巣立つための翼、すなわち学びの翼を一人一人に与えるのが私たち教員の役割だったが、それは本日を以て終了する。身に付けた翼の大き

さ、能力は千差万別で、その使い方はみなさんに託されている。すぐには飛ぶことができない人、飛べるのに飛ぶタイミングが分からない人、その反対に早く強く飛びすぎ翼を傷つけてしまう人がいるかもしれない。現在は歯科医師になつてからも、能力を高めるための継続的努力が必要な時代になつてきている。しかし一人一人の努力で獲得した学びの翼は、どんな困難に直面してもまた逆境に陥つても、それを飛び越え、さらに上へと羽ばたき続ける力となる。

みなさんはこれから足を踏み入れる歯科医療、歯科医学研究の世界で、

どんな世界観をもち、どのような仕事をしていくのだろうか。現在伝統的な歯科医療技術の延長上に新たなものが続々と生まれている。これらは私たちが学生のころには全くなかった新たな理論、概念、技術であり、次の段階へと進化を遂げようといひしめきあつていく。

将来あるべき歯科医師像、将来行うべき歯科医療を描いてみてほしい。日本の歯科医療、歯科医学を牽引していく人材となることを心から願ひ、生命歯学部部長の告辞とする。

(3月6日)

興味はつきない

諸君の中にはそんなことが分かつたから、どうなんだ？ 臨床には何

を構築する必要がある。インフォームドコンセント、またはインフォームドアセントが実践できることを心から願ひ、生命歯学部部長の告辞とする。

これからみなさんは、自分で判断しなければならぬ。そのためには生涯学習、探求心が必要となる。判断できないときは、いつでもわれわれを頼つてほしい。全国には校友会の先輩がたくさんいるので、先輩に相談していただきたい。そのとき、108回卒の誰々です。校友会での共通言語となる。

これからのみなさんのプロフィールを期待して、新潟生命歯学部部長の告辞とする。

(3月8日)

新潟生命歯学部部長



藤井 一維

RCT、ランダム化比較試験で治療の有効性が実証されても、100%治療効果が得られる保証はどこにもない。臨床試験の結果が示す数字は単なる確率でしかなく、患者さん個々の治療効果の有無は、その結果を見なければ分からない。しかし患者さんは他人が治つた例を頼りにして、自分も確実に治してもらえと期待する。これはごく自然な心理だろう。

また一定の医療行為を適切に受ければ、必ず一定の効果が出るはずだと期待している。そこにわれわれの大きな乖離があり、誤解が生じる。

大学院研究科長 告辞

生命歯学研究科長
八重垣 健



大学院修了生のみならず、わが国最高峰の学位を得た。東大や京大でも学部卒は学士で、博士の

学位より下なのだ。それだけのものを持ったことをまず自覚してほしい。一方で多くのみなさんは学位論文締め切りまで書き直して苦勞し、多くの院生が、半泣きだったことを私は知っている。こんなに勉強したのは初めてだったかもしれない。今日の学部卒業生のみなさんは6年生のときに国試に向けて、こんな

に勉強したことはないと思っているだろう。しかし、博士号を得るのはほんの勉強ではない、さきほどの学長の告辞のように、知的好奇心をもち、探求心をもち、自らやるのが本当の勉強である。大学院修了生のみならず、それに苦しんだ。ご父兄に本研究科の博士号試験システムを説明したい。試験までに学生は世界の英文学術誌に博士論文出版許可をもらわなければならない。学術

志のなかでもIF(インパクトファクター)という国際的評価があることが望まれ、IF点数が高いう学術誌が推奨される。今年度の博士論文のすべて16編は、IFのついた学術誌に投稿した。この事実は国立大学大学院の医学研究科・歯学研究科でも本場に稀である。

その論文の一部を1階のロビーに提示しているのをご覧いただきたい。近年、奇妙な現象がおきている。IFのある学術誌に論文が受理されても、本学で博士号試験をやると大幅な書き直し、訂正が要求されるケースが増えてきた。学術誌の質が低下する一方、本学

の審査は高いレベルを維持しているからだ。逆に言うと国際学術誌より本学の方が優秀になったと言える。生命歯学部卒業生に良きお手本を残した大学院修了生のみなさん、大学院研究科長として心より感謝し、告辞とする。(3月6日)

東京短期大学 学長告辞

東京短期大学学長
奈良陽 一郎



みなさんがこの世に生を受け、物心がついて以来、医師や歯科医師による診察や治療を受けたことのない人はいないだろう。

う。私たち、患者・国民の医療を担う者にとつて、最も大切なことは、自らの躰と心で経験した病の辛さや不安を常に思い出し、治療に当たることだ。医療とは、これを行う者の側にあるのではなく、医療を受ける人々のためにある。

われが校を巣立つ両学科のみなさんが学んできた領域には、それぞれ特徴がある。歯科理工学科の場合は、モノあるいは機器を駆使しながら、症例にに応じた修復物を間接的に作製する技能を身に付けてきた。歯科衛生学科では、歯科疾患に罹った患者さんと直接的に接し、歯科医師、歯科技師、コデンタルスタッフとともに治療に当たる術を身に付けてきた。したがって、日々接する対象は、模型・器材と患者さんという差異がある。しかし、両者の目標は、いづれも生身の躰と心を持つヒトを癒すことに違はない。

本日卒業の日であると同時に、歯科衛生士として社会人のスタートラインに立つ日でもある。そこで今後心に留めていただきたい三つのキーワードをお話したい。みなさんは、歯科衛生士として処置や診療補助を行うときには患者さんの脇に座ることが多いのではない。

また就職すると職場で新人なので、困ること、戸惑うこと、分からぬことなどに直面することが多いだろう。そのようなときには「ホウ・ソウ」に気が掛かる

ようなことはためらわずに報告、連絡、相談し、意思疎通を図っていたきたい。医療の現場ではチームワークがとりわけ重要で、現場でのキーワードは報告、連絡、相談の「ホウレンソウ」である。医療の進歩はとどまることを知らない。学生時代には講義や実習で新しい知識、技術を学習できたが、これからは自らの努力が必要だ。超高齢社会になって歯科衛生士の役割はさらに大きくなっている。積極的に新しい知識、技術の習得に努めてほしい。

国家試験に合格すれば歯科衛生士として国家資格をもつことになる。医療職としての国家資格をもつ者に対する周囲から期待、羨望、注目度は想像以上である。その分、期待に反することがあると、批判はより厳しくなる。職業人、社会人としてのキーワードは医療職としての自覚である。健康で大いに活躍されることをお祈りして告辞とする。(3月7日)



奈良学長の告辞に聞き入る卒業生たち



答辞を述べる卒業生代表(東京短期大学)

卒業生一人ひとりに学位記を手渡す五十嵐学長

卒業生代表による答辞(新潟短期大学)

新潟生命歯学研究科長
新海 航一



今回の修了生のなかに3年間で学位を取得した早期修了者が1名いる。この修了生は3年生の昨年12月にインパクトファクター(IF)付きの英文誌に学位論文がアクセプト(受理)された。その報告をもとに研究科委員会で慎重に審議した結果、早期修了者として学位論文の審査を受けることが承認され、みごと学位論文審査に合格した。

4年間でIF付き英文誌に学位論文がアクセプトされるのは非常に厳しい現状で、3年生の12月に、アクセプトされた点が高く評価された。早い時期に研究を開始して、非常に膨大なデータをま

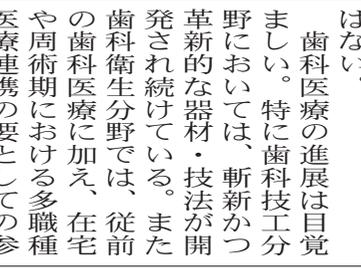
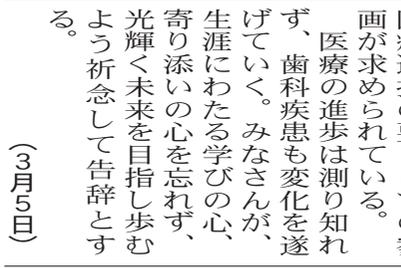
とめて、短期間で論文に仕上げるには、相当の努力が必要だったろう。4年間の修了者の学位論文もすべてIF付き英文誌に投稿され、すでに掲載されている論文もある。IF付き英文誌では、レビューが厳しい上にアクセプトまで1年を要する学術誌もあるようだ。本研究科では、このような現状に鑑み、今のところIF付き英文誌の場合、サブミット(論文受付)を学位論文審査の条件とし、1年以内にアクセプトされるのが学位記授与の前提条件となっている。

過去5年間のIF付き英文誌への掲載率は、2013年度(平成25)55%、14年度100%、15年度70%、16年度75%、17年度67%である。1年以内のアクセプト率となるとさらに低くなる。

諸君はこれまで数多くの学術大会や研修会に参

2019 卒業式点景

写真上・生命歯学部(3月6日) 写真中・新潟生命歯学部(3月8日)
写真下・左/東京短期大学(3月5日) 右/新潟短期大学(3月7日)



卒業生一人ひとりに学位記を手渡す五十嵐学長



卒業生代表による答辞(新潟短期大学)

2018年度卒業生

大学院

第56回修了生

大学院生命歯学研究科修了生16名、大学院新潟生命歯学研究科修了生9名は次の通り。(※印は3年生で修了)

(生命歯学研究科)

- 歯科矯正学 幸田隆史
歯周病学 上原直
歯周病学 藤田美也子
歯科麻酔学 遊佐佑理
衛生学 Hiromi Yagi

Mendoza

- 歯周病学 吳 亞欣
小児歯科学 鎌田弘明
解剖学1 ※前田祐貴

- 歯科補綴学I 倉持淳子
生化学 山口光祐
衛生学 横山知美
歯科保存学 小玉裕樹
接着歯科学 林孝太郎

- 臨床口腔機能学 五十嵐公美
臨床口腔機能学 磯田友子
臨床口腔機能学 仲澤裕次郎

- (新潟生命歯学研究科)
咬合形態機能矯正学 後藤 翔



新潟短期大学学長に五十嵐教授(新潟・耳鼻咽喉科学)

新潟短期大学学長に、新潟生命歯学部耳鼻咽喉科学の五十嵐文雄教授が3月1日付で就任した。

五十嵐短大学長は1978年(昭和53)3月新潟大学医学部卒業。93年(平成5)4月本学新潟歯学部耳鼻咽喉科学助教授、94年4月教授に就任。医科病院長を務めた。

大 学

第108回卒業生

日本歯科大学第108回卒業生(生命歯学部)103名は次の通り。

- 咬合形態機能矯正学 ※太田 信
顎口腔全身関連治療学 渡邊美穂
顎口腔全身関連治療学 阿部史彦
顎口腔全身関連治療学 羽生紳太郎
口腔全身機能管理学 関根美桜
全身関連臨床検査学 原 基
口腔全身機能管理学 押切 孔
機能性咬合治療学 栗田 武

- 日本歯科大学第108回卒業生(生命歯学部)103名は次の通り。
赤羽由紀子 秋山 洋
阿部由昇平 一戸 遥
伊藤瑞希 宇佐智里
梅原匡弘 江畑結利花
海老原卓弥 遠藤奈穂
塩谷 純 大出有佳子
沖佑美枝 嘉悦菜美
笠島紀明 風岡 航
勝浦杏奈 菊込亮典
川田朝香 川楚天平

- 木内佑香 岸 里香
木村千鶴 倉澤友琴
黒川理佐子 古賀悠太
小宮瑠夏 近藤徳磨
齊藤美都子 坂本行平
酒寄智央 佐々木あみ
佐野真美子 座馬忠平
清水ちえみ 清水美穂
須貝将舟 鈴木美弥
隅田みのり 関口貴之
竹井虹季 竹下奈里
田嶋貴子 田島唯佳
谷本未青 角田優子
鶴岡賢人 中川祥一
中村圭佑 中村元一
中山理賀 西巻和広
仁村可奈 沼田俊樹
沼部恵菜 萩原小絵
橋本理史 初之美穂
初瀬毅俊 埴 太有
久 星子 原田苑佳
久 星子 平川 結
平山 薫 廣神健史
廣瀬 渚 深見日尊
別府大嘉繁 榎坪英毅
別府大嘉繁 松澤依理奈
松原 萌 松本沙織
松本 龍 道脇歩美
宮田隆之 迎田 風
村上理紗 村山文康
望月 航 森田 周
江畑結利花 八木橋 慎
森田翔平 山口 将
山口彩那 吉川剛史
吉川祥代 吉川剛史
吉峯慶吾 和田健一郎
三村英旺 柳 有紀
江淵幸介 清水渚左

- 高橋茉莉 高橋玲子
長谷部貴久 細田昌孝
山内直樹 渡邊晏子
佐久間怜那 関亮太郎
永瀬啓樹 関亮太郎

- 日本歯科大学第108回卒業生(新潟生命歯学部)66名は次の通り。
回卒業生(生命歯学部)66名は次の通り。
穂保由衣 畔元研太郎
五十嵐将宏 一戸義秀
猪子修平 今田和隆
海野実佳 大崎麻未
大竹 萌 加藤寛崇
川木友里 菊地庸佑
工藤淳平 公平光重
小島麻里江 後藤 優
小林温子 坂詰智仁
篠崎博仁 眞田昌尚
篠崎未希 篠原崇宏
下田愛美 白井良周
鈴木和茂 関亜由美
武内信親 竹本さつき
東城康文 西川元規
西澤義樹 二宮あや
根本 拓 野口裕太
南 祥之 平林大樹
南 祥之 平林大樹
横田有美 吉田稜平
依田雅貴 梁 由美
渡辺有理 濱地美沙
宮下知郎 今井純平
勝沼佑香 加藤理子

- 三木まどか 八板直道
山口丈人 有坂佳祐
猪股亮介 押切 学
反町謙太 松田雅嗣
小田部洋平 中谷俊哉
田沼雅大 山田 響
倉田大地 中山収太
田村 潤 三浦美幸
中西良旭 高橋 歩

- ☆5カ年精勤賞受賞者
萩原小絵
☆臨床実習優秀賞受賞者
別府大嘉繁 村山文康

- ☆6カ年精勤賞受賞者
高橋茉莉
☆5カ年精勤賞受賞者
黒川理佐子
☆6カ年精勤賞受賞者
黒川理佐子

- ☆5カ年精勤賞受賞者
黒川理佐子
☆6カ年精勤賞受賞者
黒川理佐子

- ☆6カ年精勤賞受賞者
黒川理佐子

歯の細胞バンク講習会

会場：日本歯科大学生命歯学部
費用：無料(いずれか1回受講してください)

第1期 コーディネーター講習会

- 第1回 2019年 5月19日(日)
第2回 5月23日(木)
第3回 12月8日(日)
第4回 12月19日(木)

◇対象：歯科衛生士、歯科技工士
◇時間：(日)13:00~15:00
(木)18:00~20:00



お申込はこちら

第3期 認定医講習会

- 第13回 2019年 7月28日(日)
第14回 11月24日(日)

◇対象：歯科医師、医師
◇時間：13:00~15:00



お申込はこちら

2019年度 ポストグラデュエート・コースのご案内

Table with 4 columns: Course, Schedule/Staff/Fee, Theme, and Incharge. It lists four courses (A, B, C, D) with their respective dates, fees, and topics.

- 1) 受講資格：校友会会員、本学教職員、その他会員紹介者
2) 申込期間：6月3日(土)午前10時より受付開始
3) 締切日：Aコース=6月17日(月)、Bコース=8月19日(月)
Cコース=9月2日(月)、Dコース=9月9日(月)
4) 申込・問合せ先：日本歯科大学校友会学術委員会
Tel. 03(3261)8971 Fax. 03(3264)8745
e-mail: jimuk@koyu-ngt.gr.jp



校友会HP申込フォームQRコード
6月3日午前10時より受付開始

- 星子礼奈 吉田瑛久
吉田菜里 渡辺 翔
中村真梨子 青木 優衣
林 香里 仲谷 光
平塚 萌 前島芽依
平塚 萌 前島芽依
阿久津ゆりか 合場奈美
小林英里沙 神谷真帆
進藤耀子 杉山志緒里
中山智博 宮下悠志
中山佳央莉 岩淵柚香
須田隆正 五藤新希
名取健太郎 大瀧健司
大村聖良 柴岡 良
塚原史也 寺元大貴